

## 公開シンポジウム

### 「新しい環境共生都市像を求めて」 生命の多様性を守る新しい都市像づくり

#### 1. 主催

日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP 分科会、  
千葉商科大学大学院政策情報学研究科、日本環境共生学会、日本地域学会、資産評価政策学会

#### 2. 後援

千葉商科大学政策情報学部、市川市、市川商工会議所

3. 日時 平成19年12月22日(土) 13:30~17:30

4. 場所 千葉商科大学図書館5階会議室(千葉県市川市国府台1-3-1)

#### 5. 次第

##### 開催趣旨

IHDP 分科会は昨年度千葉商科大学で行ったシンポジウムの成果から内閣府の「イノベーション25委員会」(委員長・黒川清前日本学術会議会長)にポスト京都プロトコルの国際的な環境政策の合意を促進する4つの提言を行った実績を持つ。その活動の延長として2007年9月27日~9月30日に名古屋大学で開催された日本学術会議と日本環境共生学会が共催した第17回 AASSREC 隔年総会で環境政策とそれを支える環境研究を主題とするプログラムの形成と運営に貢献し、最終日にはIHDP セッションを持ち、Sustainability Science の戦略を示し、研究成果の報告をしたところである。

これまでの IHDP 分科会の環境政策を論じる活動を通じ、しばしば言及されつつも、真に持続可能な成長(Sustainable Development)を実現しうる低エミッションの都市像については十分に焦点をあてた議論の場がなく、関係する分野の諸学会において新しい都市像づくりに直結する満足すべき科学活動を創出するまで到達していない。そこで IHDP 分科会は AASSREC のアフターケアとして日中韓台米の5カ国の研究者による議論を通じ、新しい都市像を求め、それを実現する環境共生の公共選択の方法を導く試みを行う。日本学術会議の基本方針にすえられている科学理念「Science for Society」を満たすアウトリーチ活動とするため関係団体を通じ、一般の市民参画を求める「公開シンポジウム」とする。

総合司会 松本泰子(京都大学准教授・IHDP 分科会委員)

後援団体挨拶 藤田和夫(全宅連会長 資産評価政策学会理事)  
瀧上信光(千葉商科大学政策情報学部長)  
片岡直公(市川市商工会議所会頭)

##### 講演

1) 主題解説「低エミッション都市像づくりの重要性」

熊田禎宣(千葉商科大学教授・日本環境共生学会会長・日本学術会議 IHDP 分科会委員長)

2) 基調講演「日本の環境先進国としての国際戦略」

小池百合子(衆議院議員・元環境大臣)

討論者: 加賀屋 誠一(北海道大学教授・日本地域学会副会長)

3) 学術講演「コンパクト・シティをこえて」(仮)

西岡秀三(元国立環境研究所理事)(交渉中)

討論者: 有吉 範敏(長崎大学教授・日本環境共生学会理事)

パネル討論

座長 氷鮑揚四郎(筑波大学教授・日本学術会議 IHDP 分科会委員)  
山本佳世子(電気通信大学准教授・IHDP 分科会委員)

パネリスト

日本: 山形与志樹(国立環境研究所地球環境研究センター主席研究員・IHDP 分科会委員)

岡本耕平(名古屋大学教授・IHDP 分科会委員)

中国: 王郁(上海交通大学教授)

韓国: 金相奉(高麗大学准教授)

台湾: 賴宇松(國立東華大學環境政策研究所 助理教授)(交渉中)

米国: スチュアート・ヒーリー(金沢大学大学院)(交渉中)

総括

古市 徹(北海道大学教授・IHDP 分科会委員)

中川 雅之(日本大学教授・IHDP 分科会委員・資産評価政策学会理事)

フロア討論に以下の方々が参加することを申し出ている。

鐘ヶ江秀彦 立命館大学教授

木谷忍 東北大学准教授

樹下明 千葉商科大学客員教授

坂野達郎 東京工業大学准教授

閉会あいさつ: 廣松 毅 東京大学教授、IHDP 分科会委員

登壇者は本人の同意を得てほぼ確定しているが、一部未確定者を含んでおり、変更がありうる。

【参加申込み方法】

- ・ 関係学会や団体の事務局を通じて研究者および市民に広報しファクスもしくはメールで参加申し込みを受け、参加者のリストを事前に作成する。公開シンポジウムであるため参加は無料とする。

【問い合わせ先】

- ・ 千葉商科大学政策情報学研究科長 熊田禎宣研究室
- ・ [Tel047-372-4111、Fax047-300-7031、e-mail、ykuma@cuc.ac.jp]